

神によるスンナの保持 (5/7) : 初期のハディース と 承者の

:

明:

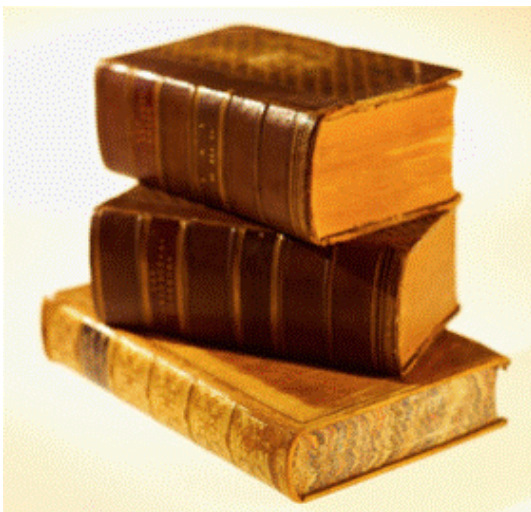
以下では、言者ムハンマドの教えすなわちスンナが史を通していかに改や修正から守られ、その信性を保ちけたのかについて考えます。第5部: 初期のハディース と 承者の について。

目: [事言者ムハンマド彼の言にして](#)

より: ジャマ ルッディ ン ザラボゾ (2011 IslamReligion.com)

7 Jun 2011

集日 27 Jun 2011



ハディース保持におけるもう一つの重要な面は、初期のハディース、そして承者たちによるものでした。言者の生前においても、教友たちはたびたび彼をね、耳にした言者にまつわる承の真をしていました。アザミ教授はアル=ブハリ、ムスリム、アン=ナサイ、アハマドといったハディース集に言及しこのように述べています:

“(ハディース) 批が物事の正否をめるための努力なのであれば、それは言者の生前に始まっていたと言えるでしょう。しかしこの段においては、ただ言者の元へ行き、えられたものにしてするだけのことでした…

“私たちはそのような や がアリ、ウバイブンカアブ、アブドッラブンアムル、ウマル、イブンマスウドの妻であるザイナブなどによって行われていたことを知ります。これらの出来事を考えると、ハディースの、すなわち初 的なハディースは言者代に始まったと言えるのです。¹

承をするためのこういった 践は、言者（神の慈悲と祝福あれ）の死と共にりを迎えることは明らかです。教友たちの代では、アブバクル、ウマル、アリ、イブンウマルなどの著名な教友たちによって、お互いのハディースが され合っていました。たとえばウマルはハディースの切な普及に して 格でした。サヒフムスリムにおいて、アブムサアル＝アシュアリ の例を て取ることも出来ます。ウマルは彼が えているハディースの 人を提示しなければ、彼を すると迫りました。アブドル＝ハミド スィッディキによるこのハディースの注によれば、ウマルはアブムサに疑念を抱いていたのではなく、ハディースの承において 格な を求めているのだとします²。

これに似た多くの例があります。アブフライラ、ア イシャ、ウマル、イブンウマルはハディースの をしていました。に彼らは（上のウマルとアブムサの例のように、）お互いのハディースを参照し合っていましたし、には“ 差 ”と呼べるような方法も用いていました。イマムムスリムの によると、ア イシャがアブドッラブンアムルからあるハディースを いた一年、彼女はアブドッラブンアムルに使用人を遣わしてもう一度同じハディースを かせ、彼は言者から いたものが以前と同じのものであること、そして何も ちや追加がなされなかったことを したのです³。

このような 承路の は、「アル＝ジャルフワッ＝タアディル」という卓越した独自の学を生み出すに至りました。そこでは文字通り、何千人もの 承者たちの人生、学 的能力、道 的 などが に渡って吟味されました。ハディースが められるには、 承者一人一人の道 的 学 的な が共に求められたのです。どちらか一方が欠けていてもだめでした。れた 力を持っていたり、情 の正 な に けていたりしても、その人物が かつ信 に する人物でなければ彼の えたハディース、すなわち最も重要な情 であるべきものは められなかったのです。同 に、もしある人物が非常に敬虔で であったとしても、文学的 学 的な素 がなく、情 を正 に えることが出来なかったのであれば、その人物の 承は信 性のないものとなさ

れました。

したがって、学者たちはハディースの 承者の熟 度 正 性を するための 々な方法を生み出したのです。アザミ は、 承者の熟 性を かめるには4通りの方法があるとしています。彼はそれぞれの例を げていますが、それらは以下の通りです：

(1) 同じ学者を として持つ なる生徒のハディースの比 。例えば、ハンマ ド ブン サラマのを17人のハンマ ドの生徒に ませたヤヒヤ ブン マイ ンの 合が げられます。彼はそうすることにより、（他の学者が えたものと比 することによって）ハンマ ドの 失と、（ハンマ ドの他の生徒のものとは比 することによって）それぞれの生徒の りを くことが出来ると述べています。

(2) なる年代における、一人の学者の主 の比 。ア イシャのハディースで既述したように、彼女はアブドッラ ブン アムル アル=ア スに、一年前に述べたハディースの をさせています。彼女は彼がハディースに何の 更も加えていないことを することで、彼が 言者からいたことをそのまま暗 していたことを 信したのです。

(3) 口述と著述された文 の比 。アザミ は以下の例を示しています：

アブドッラフマ ン ブン ウマルはアブ フライラによるズフル（昼）の礼 についてのハディースを 承し、それが夏 は早い からは 延することが出来ると えました。アブ ブラアはそれは いであると言いました。このハディースは、アブ サイドの 威において 承されています。アブドッラフマ ン ブン ウマルはこのことを真 に受け止め、忘れたりもしませんでした。彼は地元 にって彼のハディースを し、自分が っていたことに が付きました。そして彼はアブ ブラアに手 を き、自らの いを め、彼の生徒とそれを いたその他の人々にその いを えてくれるよう、彼の手助けを求めたのです。そして彼は 辱は地 よりもましであり、そこには神の があると言ったのです。

(4) ハディースとクルア ンのテキスト比 。この 践は教友たちによって始められました。ハディースはまず、クルア ンとの比 に合格しなければなりませんでした。教友たちはクルア ンに矛盾するハディースは一つも めず、そうでない 合は教友たちが えたか、もしくは

は言者からいたものを解したかのどちらかであると 付けたのです。彼らはクルアーンとスンナが本 的には一つの 示であり、互いに矛盾することはあり得ないということを知っていました。

アザミ は 承者の熟 度を するための上 の4通りの方法のみに言及していますが、他の方法も存在します。次のものは非常に一般的に使われる方法です。それらは一人の 承者がえたものを他者の えたものと比 する方法（すなわち同じ を持つ生徒同士によらないもの）、一つのスンナを他のものと比 し、ハディ スのテキストを 史的事柄に照らし合わせる方法などです。

Footnotes:

1 Mustafa Muhammad Azami, *Studies in Hadeeth Methodology and Literature* (Indianapolis, IN: American Trust Publications, 1977), p. 48.

2 Abdul Hamid Siddiqui, trans. and commentator, *Sahih Muslim* (Lahore, Pakistan: Sh. Muhammad Ashraf, 1972), vol. 3, pp. 1175-6.

3 Ibid., vol. 4, p. 1405.

4 Azami, *Methodology*, pp. 52-58.

5 Azami, *Methodology*, p. 56.

この 事のウェブアドレス:

<https://www.islamreligion.com/jp/articles/596>

著作 2006-2015 断 を禁じます。 2006 - 2023 IslamReligion.com. 断 を禁じます。